

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	3492300029		
法人名	社会福祉法人 広島友愛福祉会		
事業所名	グループホーム ふきのとう		
所在地 (電話番号)	広島県大竹市松ヶ原町854-1		(電話) 0827-57-7288

評価機関名	(社福)広島県社会福祉協議会		
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2		
訪問調査日	平成22年2月19日	評価確定日	平成22年4月5日

## 【情報提供票より】(平成22年 2月 5日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成20年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	14 人	常勤 12人, 非常勤 12 人, 常勤換算 5.6 人	

### (2) 建物概要

建物形態	○併設/単独		○新築/改築	
建物構造	鉄骨 造り			
	2 階建ての		階 ~	2 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	41,000 円	その他の経費(月額)	実費 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100 円			

### (4) 利用者の概要( 2月 5日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	82 歳	最高	94 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	広島西医療センター , 藤井歯科		
---------	------------------	--	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームふきのとう(以下、ホーム)は、社会福祉法人 広島友愛福祉会に属するホームです。大竹市の東部の山、川、田、畑など懐かしい雰囲気を残す自然の中に溶け込んで建っています。ホームのある地域は、福祉へ深い理解があり、ホームへの協力や交流も日常的に行われています。利用者の地域行事への参加だけでなく、ホームが開催する勉強会、お茶会などを通じて、地域とのコミュニケーションが図られています。特に、利用者一人ひとりの習慣や希望を大切に外出支援に積極的に取り組まれており、楽しみながら気分転換や五感刺激につなげ、機能維持に努められています。また、利用者のできることを十分に発揮する場面づくりや楽しい日々の継続、笑顔につながるケアをめざして、職員と法人全体で取り組まれています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での主な改善課題はありませんでした。事業所としてさらなるケアの向上をめざして独自の目標、課題を設けるなど、積極的な取り組みを実施されています。</p>
	②	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>評価は、職員全員で取り組み、できている点、課題点を再確認する良い機会と捉えられています。ホームとして具体的な目標、課題を設け、利用者と一緒にできることを優先し、利用者の笑顔づくりに向けた日々のケアに活かされています。</p>
重点項目	③	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、利用者、家族、地域、市担当職員、地域包括支援センター職員等、多くの関係者が参加して定期的に開催されています。会議の一環として、報告、要望、相談ごとを盛りこんだアンケートの実施や勉強会、食事会も行われており、交流の場としての幅広い活用となっています。</p>
重点項目	④	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>相談、苦情窓口が設置されています。どんな小さな相談にも応じられるよう法人全体での取り組みが見られます。家族へのアンケートを定期的実施され、意見や要望を汲み取るなどの取り組みも積極的に行われています。</p>
重点項目	⑤	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のホームに対する深い理解のもとに、地域行事に積極的に参加されています。地域に代々受け継がれている松ヶ原神楽には、毛布持参で観覧したり、体操講師やギタリストとの訪問交流も始まったりしています。また、運営推進会議を利用してお茶会、食事会、勉強会を開くなど地域住民が気軽に立ち寄れる工夫が行われています。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念をもとにホーム独自に「私たちは笑顔を大切にします」という理念を掲げています。職員は、日々の介護の中から利用者の自然体の笑顔が出るようにとの思いをこめて作られています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、ホーム内のよく見える位置に複数か所に掲示されています。朝礼やミーティング以外にも、理念を確認する機会を頻繁に設けるなど共有と徹底が図られています。また、職員自身も自然体の笑顔で穏やかに接するよう心がけておられます。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域に代々受け継がれている松ヶ原神楽を毛布持参で観覧に出かけたり、体操講師やギタリストの訪問交流も始められたりされています。また、運営推進会議を利用したお茶会、食事会、勉強会を開くなど、地域住民が気軽に立ち寄る機会を提供されています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価の意義を理解され、職員全員で取り組まれています。できている点、課題を残す点を再確認する機会と捉え、ホームとして具体的な改善目標を掲げています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、家族、地域、市担当職員、地域包括支援センター職員等、多くの関係者を得て定期的に開催されています。要望や相談を盛りこんだアンケートの実施、勉強会、食事会もこの場を利用して行われており、交流の場としても多様に活用されています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者は、ホームからの相談を受け、2か月ごとに開催される運営推進会議にも出席されています。また、ホームは報告書の持参だけでなく、行政の主催する研修会にも出席し、ケアの向上に努められています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、利用者の暮らしぶりを伝える便りを家族に送付されています。便りには、行事に参加した時の笑顔の写真がコメントと共に添えられています。また、遠方の家族には、金銭管理の詳細も同封し報告されています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情窓口が設置されています。どんな小さな相談にも感じられるよう法人全体での取り組みが見られます。家族へのアンケートを定期的実施し、意見や要望の汲み取りを図るなど積極的に取り組まれています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は、利用者全員と馴染みの関係を作ることに、日頃から心がけられています。異動は、必要最小限に留められており、新人職員にはベテラン職員が一定期間つくことで、利用者との馴染み関係が早くできるよう配慮されています。認知症のある利用者には、影響を考慮して説明は行われていません。	○	職員の異動については、事前に知らせることが可能な場合はできる限り説明されることを期待します。異動していく職員と家族との間に築かれた信頼関係が新任職員にも同じように築かれることで、ホームに対する安心感や信頼感に繋がるのが考えられます。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人は職員育成に対する理解が深く、外部、内部研修への積極的な支援が図られています。受講後は、受講内容の周知と共有を兼ねた報告が職員全員に対して行われています。また、職員のケアの質の均衡を図るため、順番に必要な研修に参加させる配慮も図られています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の同業者に限定することなく、県内の同業者と広く交流を始められています。職員は、交代で同業者との交流会に参加し、全職員が交流の機会を得られています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホーム入居に際しては、併設する小規模多機能ホームを利用しながら、ホームの雰囲気を職員との馴染み関係を築くよう努めておられます。利用者は通いや泊まりを体験しながら、徐々にホームでの暮らしになじむことができます。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、日頃の暮らしぶりから、利用者の思いをしっかりと受け止め、できること、したいことを把握し、その日が楽しくなるように寄り添っています。今冬は切り干し大根づくり等に挑戦し、利用者から教えていただく場面が沢山ありました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者ごとにケア担当職員を設け、気軽に話し合える関係を作って、詳細な情報が得られるよう努められています。利用者の誕生日には、担当者を中心にプレゼントを考えたり好きな献立を提供し、本人の笑顔の実現に向け健闘されています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入所時のアセスメントを丁寧に行うことで、情報を多く持ち、本人、家族の希望、生活歴の把握に努められています。担当者会議では、ケアマネジャー、担当職員を中心に、記録を確認しながら、利用者本位の計画作成が行われています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	カンファレンスは、毎週開催されています。利用者一人ひとりについて意見交換を重ね、見直しを含めて計画の評価が実施されています。カンファレンスへの出席が難しい家族には、事前に意見や要望を聞き、現状に即した計画となるよう取り組み状況や変更についての説明も丁寧に行われています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設の小規模多機能ホームを利用しながらホームの雰囲気 に慣れていくことができます。また、特養への入所を希望する 利用者には母体法人との連携も図られています。 さらに、ホーム運営に理解のある土地柄であることから、外出 支援など利用者の思い出づくりに柔軟な協力が得られていま す。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、 適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望を優先して医療が受けられるよう 努めておられます。受診の際には、ホームが独自に作 成した医療連携シート、ケアシートなどを持参し、医師 と情報を共有する働きかけが積極的に行われていま す。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき るだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	ホームは、開設からの期間が1年半と日が浅いこともあ り、終末期のケアが必要な利用者は現在のところありま せん。 法人は、重度化ケア指針を掲げており、法人の方針に 沿って蓄えられた経験を活かして家族、医師と連携し ながら終末期ケアへの取り組みを図ることとされていま す。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをし ていない	利用者の個人記録は、外部の訪問者の目に触れない ように適切に保管されると共に、法人内研修でも徹底 が図られています。 また、職員は、笑顔と穏やかな声かけを心がけ、利用者 一人ひとりを尊重したケアに努められています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課は作成されていますが、利用者一人ひと りの体調、希望に配慮した暮らしとなるよう心がけておら れます。共用のホールには2台のテレビがあり、それぞ れに見たい番組を見ることができます。利用者のほとん どが、居室に閉じこもることなくホールで自由に過ごさ れています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、地元の野菜を多く使用し、薄味を基本に味付けがされています。盛り付けや色取りにも工夫されています。料理達者な利用者は、職員と一緒に調理に腕を振るわれています。また、職員と利用者は同じメニューと一緒に食べ、会話のある楽しい時間を共有されています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を聞きながら、午前と午後に分かれて入浴できます。家族風呂を思わせる風呂場は、見守りや介助のスペースも十分に取られています。また、冬季には、脱衣場を事前に暖めるなど入浴環境にも配慮され、入浴の楽しさを支援されています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションの一環として、利用者手作りの日めくりカレンダーが作成されています。日めくりを習慣としていた利用者にホームのカレンダーをめくる役割を依頼したり、料理や掃除など、できることを楽しみながら継続する生活歴を尊重した支援が図られています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ドライブを兼ねて地域の「産直市わくわくファーム」やスーパーへの買い物、温泉めぐりや外食など、利用者の要望やその日の体調に合わせた外出が頻繁に行われています。外出は、メリハリのある暮らしと安眠、そして、利用者の笑顔につながるよう積極的に支援されています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームでは、施錠による弊害を考慮し、日常的に鍵かけは行われていません。しかし、利用者の入居前の習慣を尊重して、居室には内鍵が設置されており安心につながられています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設の小規模多機能ホームと一緒に定期的に消防訓練が実施されています。さらに、ホーム独自の訓練も行われており、利用者と共に避難経路や広域避難場所を確認するなど災害時を想定した取り組みに努められています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取は、個別ケアシートに記録され体調管理につなげられています。 食事は、外部業者の配達を利用して、ホームで調理されています。また、利用者の状態や好みに応じて、お粥等も提供されています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、暖かなベージュ色で統一され家庭的な雰囲気です。リビング中央には、子割りのテーブルが置かれ、レクや行事、食事等目的にあわせて自由に組み替え、気分転換が図られています。また、好きな番組を見ることができるように2台のテレビとソファも設置されています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食事時間を利用して、居室の自然換気に努められています。 使い慣れた家具や布団、枕が持ち込まれていて、入居後も安心して居心地よく暮らせる工夫がされています。また、ホームから贈られた日頃の暮らしぶりを称えた感謝状も掛けてあり、利用者の励みとなっています。		

# 介護サービス自己評価基準

小規模多機能型居宅介護  
認知症対応型共同生活介護

事業所名 「グループホーム」 ふきのとう

評価年月日 2010年01月15日

記入年月日 2010年02月03日

※この基準に基づき、別紙の実施方法  
のとおり自己評価を行うこと。

記入者 職 管理者 氏名 高野 久美子



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

## I 理念の基づく運営

### 1 理念の共有

1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	私たちは、開設時に職員で理念を考え、住み慣れた地域でその人らしく自立して生活して行くために、自立と共生を基に笑顔を大切にした介護の提供をしている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	パンフレット、施設内に明示し、業務日誌に印刷している。常に意識づけをしている。	○	次年度の事業計画に、笑顔を出す介護を目標と掲げている
3	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	家族にはお便りで知らせている。理念を玄関ホール、居間に掲示している運営推進会書類に印刷している		

### 2 地域との支えあい

4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近隣の人に必ず挨拶をしている。近隣の農協、商店に買い物に行き、声をよくかけていただいている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域行事参加をしている。地域のボランティアの方もよく来られている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	介護教室を行う予定がある		
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	より良い事業所にするために、課題提起のチャンスと捉え理解している。具体的な改善を行った	<input type="radio"/>	花壇、畑を作り皆さんと楽しんだ
8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	毎回状況報告をし、ご意見、指導を参考にサービスに活かしている。	<input type="radio"/>	アンケートを実施し、改善した
9	○ 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市に相談、指導を受けている。		
10	○ 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	権利擁護について読み合わせを行い、必要と思われる家族には説明をしていきたい。制度に対する知識を持ち、施設に掲示してある。	<input type="radio"/>	研修を行っていきたい。
11	○ 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ホームに掲示し、マニュアルを作成している		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、介護保険の概要も含め丁寧に説明を行い、理解の上契約を行っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	相談窓口を設置している(2か所2名)。 御意見箱を設置している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	今月のご様子(月1回)で暮らしぶりをお伝えしている、来所時にも報告を行っている。金銭管理については請求時に報告している		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	重要事項に記載し、説明時に伝えている。運営会議時にも意見をお伺いしている。		
16	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議、申し送り、ケアカンファ等で職員の意見や提案を聴く機会を設けている。	○	職員からの意見を聴く機会を増やしたい
17	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	状況に合わせて勤務調整を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	馴染みの職員を多く配置し、常に関わりあえる状況にしている。職員の異動はあったが、利用者からの動揺はない。		
<b>5 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内で新任、現任研修を行っている。研修計画を立てている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホーム事業者交流会に入会し、定期的に参加している。	○	グループホーム協会の入会を考えている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	職員同士の交流会、親睦会を行っている。運営者は職員の相談に対応している。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	嘱託職員の中で意欲や希望がある職員に対しては正職員への登用あり。また、資格取得時の助成制度あり。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	来所、見学後、必ず本人との訪問面談を行い、傾聴に心がけている。入居後は担当者を決め、コミュニケーションを図っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談から入居まで十分に家族から話を聞き、家族が困っている事を受け止め入居に繋げる。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホーム入居が最良の自立支援になりえるのかを含め、本人の希望、家族の希望を最大限に活かせるサービスを説明している。		
26	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	体験利用をして本人、家族が納得して利用できる様に、対応している。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生きていくという理念に基づき、一緒に行う支援を中心に位置付けている。		
28	○ 本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族との連絡を出来る限りとり、本人の心身状況を報告し、本人の出来た事とともに喜べるように努めている。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	本人と家族の関係を把握し、より良い関係が築けるよう適宜情報交換を行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの関係が途切れないように支援している。	○	小規模利用の家族、知人の面会を行っている。家族との食事をする機会の提供。
31	○ 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	すべての利用者が参加できるように配慮し、レクリエーションを行っている。利用者同士の席順をあらかじめ設定し、混乱のないように配慮している。		
32	○ 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	見学に来られたご家族には定期的に連絡している。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

#### 1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個別支援計画を作成している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族、本人からのアセスメントを適宜行い、本人の生活歴を大切にしたい会話を心掛けている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個別支援計画書に基づき、一人一人のペースにあった生活を支援している。ケアシートに心身状態等をチェックし、把握している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	------------------------	---------------------------------

## 2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	担当者会議を適宜行い計画を立てている。ケアカンファをとおして職員からの意見等を反映した介護計画づくりに努めている。		
37	○ 状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	3ヶ月に一回評価をし、ケアプランの見直しを行っている。		
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアシートに日常の様子やケアの記録をしている。申し送りとノートにより情報の共有をしている。		

## 3 多機能性を活かした柔軟な支援

39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	小規模多機能ホームと交流を行っている。		
----	--	---------------------	--	--

## 4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	健康体操の地域ボランティアを導入している。		
----	---	-----------------------	--	--

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
41	○  他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	訪問リハビリテーション、訪問歯科利用の方がいる。		
42	○  地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	現在は必要性が生じていないが、必要となった場合は協働していきたい。		
43	○  かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	今までと変わらない医療機関の受診を支援している。		
44	○  認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症専門医の主治医の入居者も多く、必要時には連絡の取れるようにしている。主治医へいつでも相談ができる医療体制をとっている。		
45	○  看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師を定期的に配置し、気軽に相談している。受診時の対応も一緒に行っている。		
46	○  早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	病院関係者と情報交換をし、早期の退院ができるよう支援している。		



番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
47	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	重度化ケアについての指針はある。現在対象者がいない。		
48	○ 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	指針により取り組んでいきたいが、グループホームで出来る範囲は限られてくるため現時点では難しい。		
49	○ 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	退去時相談援助加算を取っている。次事業所への情報提供、担当者会を開き情報交換をし、安心して他所入居に繋げている。		

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

##### 1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重

50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	丁寧な声掛けを行い、排泄時等はプライバシーの配慮を行っている。記録には個人名を記入しない。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	自己決定が出来るような声掛けを行っている。選択が出来る場の提供をしている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者の願いや希望を尊重しながら、レクリエーションを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援

53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	2か月に1回美容の日を設定している。外出時の服選びを一緒にしている。		
54	○ 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	目で見ても楽しめる食事提供を行っている。共同調理を一緒に行っている。献立の希望を取り入れている。作る楽しみ、食べる楽しみを提供している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	飲み物の選択やおやつを選択が出来るように配慮している。特別食等には希望者にアルコールの提供をしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄のリズムの把握に努め、早めの声掛け誘導に努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	本人の体調に合わせて入浴の時間を設定している。入浴剤希望の方には入浴時に使用している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	音や光に配慮し、環境整備を行っている。日中の休息も自由に行っている。夜間不眠の方には安眠の為にアクティビティを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	----	---------------------------------	--------------------	---------------------------------

(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援

59	○役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように, 一人ひとりの生活歴や力を活かした役割, 楽しみごと, 気晴らしの支援をしている。	生活歴に合った役立ちの行為を支援している。楽しみ事、の支援(手芸・物作り) 気晴らしの支援(小規模との交流・庭でのグランドゴルフ)		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は, 本人がお金を持つことの大切さを理解しており, 一人ひとりの希望や力に応じて, お金を所持したり使えるように支援している。	家族よりお小遣いを預かり、外出時には本人の希望に沿って使用している。		
61	○ 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに, 一人ひとりのその日の希望にそって, 戸外に出かけられるよう支援している。	近隣の散歩、買い物と一緒にやっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに, 個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	不定期に外食、ドライブ、足湯に出かけている。広島までコンサートへ出掛けた。	○	家族同行の外出の計画を立てて行きたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり, 手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話の取り次ぎを行っている。年賀状を毎年家族に書いている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族, 知人, 友人等, 本人の馴染みの人たちが, いつでも気軽に訪問でき, 居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時には声掛けを行い、家庭を訪問したようにおもてなしを心掛けている。次回の訪問に繋げている。		

(4) 安心と安全を支える支援

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	基本的に拘束はしない。身体拘束についての行為を掲示し理解している。いつも気づきがあるように指導している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関のかぎは掛けていないが、プッシュ式に開閉する。居室の施錠は本人の意思を尊重している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	安全性の確保に努めている。声掛けを適宜行っている。夜間の巡室を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物は所定の位置に置く。洗剤等は棚に保管。混乱を招くものは事務所に保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアルを作成している。一人一人のリスクをアセスメントにより共有している。環境整備に努めている。(床の水分はすぐふきとる。転倒の可能性のあるものは置かない・薬はロッカーに保管・のどに詰まりやすい食材は使わない・・・)		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	救急救命の講習を受けている職員が大半だが全員ではない。AEDの講習を行った。急変事のマニュアルを作成している。	○	救急救命の講習を全員が受けたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防訓練を行っている。防災研修に参加した。地域の協力をお願いしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族にリスクについて話をしている。	○	一人ひとりのリスクについて再度のアセスメントをしていきたい
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタルチェックを行い、体調不良時は様子観察をしている。気づきはケアシートに記入している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋を個人ファイルに綴じ、いつでも見られるようにしており、薬の用法を職員が理解している。必ず服用するまで支援している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分補給、運動に努めている。排便チェック表を作成し、適宜対応している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食後の口腔ケア介助を行っている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分チェック表を作り、水分補給を定期的に行っている。栄養摂取は、本人に合わせ刻み、少量、流動・・・と配慮している。水分は1000ccの確保を基本としている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防のマニュアルがある。手洗い、手指の消毒、うがいを行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食器乾燥機を使用している。野菜は地域の新鮮なものを購入している。食中毒のマニュアルを作成している。消毒、衛生に配慮している。		
<p>2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	出入り口に鉢ものを飾っている。看板の下に花壇を作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関には絵や小物を飾っている。季節の花を定期的に飾っている。制作した作品を施設内に飾っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの配置を時々変えて、自分の居場所を確保して頂いている。ソファを2か所に置いて、一人になれる場所を作っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具や思い出の品を飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	24時間換気にしてある。定期的に窓を開けて空気の入替えをしている。入眠前に部屋を暖めている。乾燥時期には加湿器を置いている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	随所に手すりがある。バリアフリーの設計になっている。家具やベットの位置を身体機能に合わせて配置した。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	身体機能に合わせてコミュニケーションをとっている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	ミニ菜園・花壇を作っている。ベランダで日向ぼっこをして談話を行っている。歩行訓練をされている方もいる。	○	ベランダに利用者が楽しめるように工夫していきたい。

V サービスの成果に関する項目

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="radio"/> ① 毎日ある <input type="radio"/> ② 数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③ たまにある <input type="radio"/> ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない



95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族と <input checked="" type="radio"/> ② 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③ 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input type="radio"/> ① ほぼ毎日のように <input checked="" type="radio"/> ② 数日に1回程度 <input type="radio"/> ③ たまに <input type="radio"/> ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input type="radio"/> ① 大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ② 少しずつ増えている <input type="radio"/> ③ あまり増えていない <input type="radio"/> ④ 全くいない
98	職員は、活き活きと働いている。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての職員が <input checked="" type="radio"/> ② 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="radio"/> ① ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ② 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③ 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> ① ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ② 家族等の2/3くらい <input type="radio"/> ③ 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> ④ ほとんどできていない

※           は、外部評価との共通項目